

平成26年度 第1回

杉並区インターネット区民アンケート

集計結果報告書

杉並区総合計画・実行計画の改定に向けて
に関する区民アンケート



平成26年5月実施

杉並区総務部区政相談課

調査の概要

1 調査の目的

区では、杉並区の将来像と目標を描いた『杉並区基本構想(10年ビジョン)』の実現のための道筋として、平成24年3月に「杉並区総合計画(10年プラン)」[計画期間:平成24～33年度]と「杉並区実行計画(3年プログラム)」[計画期間:平成24～26年度]を策定しました。

その後、計画事業の推進に努めてきたところですが、区政を取り巻く社会経済環境の変化や、計画策定後の新たな課題などへの対応を図るために、平成26年度に両計画を見直すこととしました。

そこで、区政運営の基本となるこれらの計画の改定に先立ち、区政モニターの皆さんのご意見を参考にさせていただくため、アンケート調査を実施します。

2 調査の内容

「杉並区総合計画・実行計画の改定に向けて」について

3 調査期間

平成26年5月1日(木)～5月16日(金)

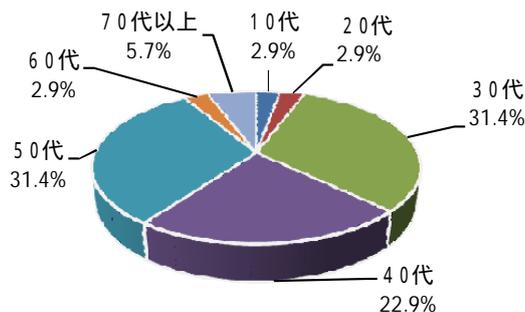
4 回答者数

35人 (＊インターネットアンケートの回答者数。以下同。)

5 回答者構成

単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	男女比
男性	1	0	4	6	4	1	0	16	45.7%
女性	0	1	7	2	7	0	2	19	54.3%
合計	1	1	11	8	11	1	2	35	100.0%
	2.9%	2.9%	31.4%	22.9%	31.4%	2.9%	5.7%	100.0%	



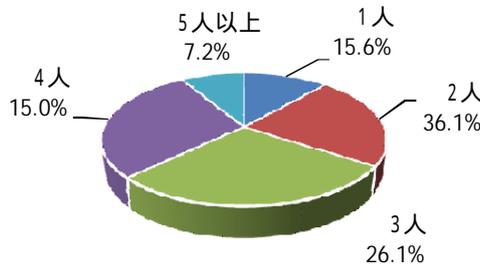
6 集計・分析にあたって

- (1) 各項目の初めにあるNは、回答者数を表しています。
- (2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

問3. 現在一緒に住んでいるご家族はあなたを含めて何人ですか。(は1つ)

N = 35

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
1人	4	11.4%	男性	2	1	1	0	0
			女性	2	0	0	1	1
2人	8	22.9%	男性	5	0	4	1	0
			女性	3	1	1	0	1
3人	10	28.6%	男性	2	0	0	2	0
			女性	8	0	4	4	0
4人	10	28.6%	男性	5	0	4	1	0
			女性	5	0	3	2	0
5人以上	3	8.6%	男性	2	0	1	1	0
			女性	1	0	1	0	0
合計	35	100.0%	男性	16	1	10	5	0
			女性	19	1	9	7	2



問4. 基本構想では「支えあい共につくる 安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並」を区の将来像として掲げ、その実現に向けて5つの目標を設定しました。以下、目標ごとにあげた取組の中で、区が今後特に力を入れるべきだと思うものを3つ以内で選び、回答欄に番号をご記入ください。「その他」を選択した場合、必要だと思う取組内容を()内にご記入ください。

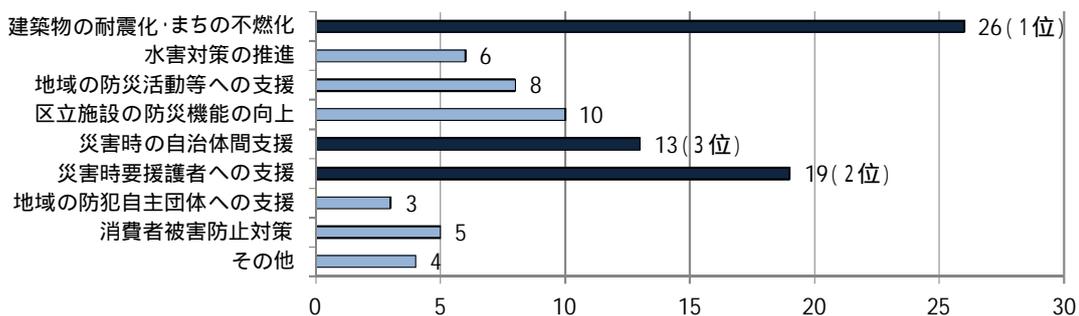
目標 災害に強く安全・安心に暮らせるまち

N = 35

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
建築物の耐震化・まちの不燃化	26	27.7%	男性	12	1	8	3	0
			女性	14	0	8	4	2
水害対策の推進	6	6.4%	男性	1	0	1	0	0
			女性	5	0	2	3	0
地域の防災活動等への支援	8	8.5%	男性	2	0	2	0	0
			女性	6	1	3	1	1
区立施設の防災機能の向上	10	10.6%	男性	6	1	3	2	0
			女性	4	0	1	3	0
災害時の自治体間支援	13	13.8%	男性	5	0	3	2	0
			女性	8	0	5	2	1
災害時要援護者への支援	19	20.2%	男性	9	0	4	5	0
			女性	10	1	4	3	2
地域の防犯自主団体への支援	3	3.2%	男性	2	0	1	1	0
			女性	1	0	1	0	0
消費者被害防止対策	5	5.3%	男性	2	0	2	0	0
			女性	3	1	2	0	0
その他	4	4.3%	男性	3	0	3	0	0
			女性	1	0	0	1	0
合計	94	100.0%	男性	42	2	27	13	0
			女性	52	3	26	17	6

その他(具体的に)

- ・ 区サイトの機能向上やユーザビリティ向上、スマートフォン対応等。
- ・ 原発の廃止。
- ・ 電力の地産地消。
- ・ 現状にそくした避難マニュアルの作成。



自由意見

- ・ 土木系の施策は一巡したと考える。まずは区サイトの機能向上やユーザビリティ向上、スマートフォン対応等総合的に行うべきと考える。また、施設ごとにサイトが乱立している状況がたまに見られるが、予算運用の改革が必要ではないかと考える。なお、アニメコンテンツ産業への支援は、若年者のアニメ制作者が搾取されることのないよう施策を行うべきと考えており、阿佐ヶ谷アニメストリートは若干の違和感がある。
- ・ 予防的に原発の廃止を区として国や東京電力に求める。
- ・ 電力の地産地消が出来るように。
- ・ 建物が壊れても、人がケガをしない建造物。 建物の不燃化、燃焼しても他ににうつらない対策。 災害時、地域をまとめてくれるリーダー。
- ・ 地震が起きたとき火災が一番怖いがどこにどんな道順で避難すればいいのかわからない。小中学校の避難所にいったところで安全とも思えない。そこからみんなで次の場所に避難しましょうといわれても、それは現実的な方法だろうか？各地区の現状にそくした避難マニュアルを作成してほしい。

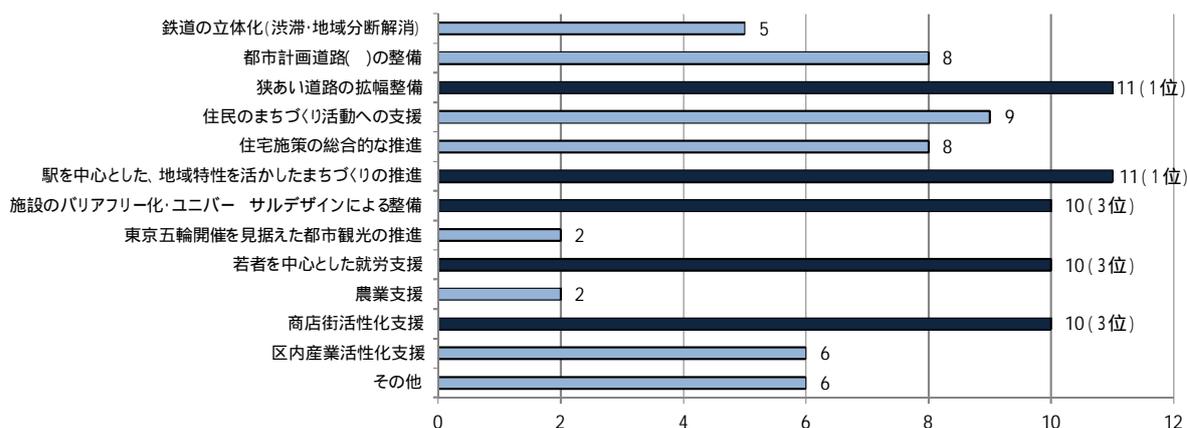
目標 暮らしやすく快適で魅力あるまち

N = 35

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	件数	割合	男性	女性				
鉄道の立体化(渋滞・地域分断解消)	5	5.1%	男性	2	0	1	1	0
			女性	3	1	1	1	0
都市計画道路()の整備	8	8.2%	男性	5	1	4	0	0
			女性	3	0	1	2	0
狭あい道路の拡幅整備	11	11.2%	男性	4	1	2	1	0
			女性	7	1	3	2	1
住民のまちづくり活動への支援	9	9.2%	男性	4	0	3	1	0
			女性	5	0	3	1	1
住宅施策の総合的な推進	8	8.2%	男性	4	0	4	0	0
			女性	4	0	2	2	0
駅を中心とした、地域特性を活かしたまちづくりの推進	11	11.2%	男性	3	1	1	1	0
			女性	8	0	3	3	2
施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザインによる整備	10	10.2%	男性	6	0	2	4	0
			女性	4	1	2	1	0
東京五輪開催を見据えた都市観光の推進	2	2.0%	男性	2	0	1	1	0
			女性	0	0	0	0	0
若者を中心とした就労支援	10	10.2%	男性	5	0	3	2	0
			女性	5	0	3	2	0
農業支援	2	2.0%	男性	2	0	1	1	0
			女性	0	0	0	0	0
商店街活性化支援	10	10.2%	男性	3	0	2	1	0
			女性	7	0	5	1	1
区内産業活性化支援	6	6.1%	男性	2	0	2	0	0
			女性	4	0	3	0	1
その他	6	6.1%	男性	4	0	3	1	0
			女性	2	0	0	2	0
合計	98	100.0%	男性	46	3	29	14	0
			女性	52	3	26	17	6

その他(具体的に)

- ・ IT化による無駄の削減。
- ・ レクリエーション活動への補助
- ・ 公共的住宅政策。
- ・ 電線の地中化。



自由意見

- ・IT化による無駄の削減。ただし区の発注システムや組織体制の前時代的なシステムが効率化に際して障壁となっていると感じる。記憶に新しいところでは、杉並区地域電子マネーや現行災害アプリのような無駄が再発しないよう対策を講じるべき。原因と対策としては、察するに、IT化に際し、特に大手や中堅システム会社任せにすることなく、区内の技術力がある事業者にも参入障壁を低くするとともに、このような施策やシステム会社への対応として、専門的な知識を有する区内の者をアドバイザー等として助言、対応できる体制を作る必要があると考えている。(専任の職員を雇用する必要は無いと考える。)
- ・若年、高齢にかかわらずレクリエーション活動への補助。近年の社交ダンスやヒップホップなどのダンスが学習指導要領に盛り込まれたことを受け、年齢や体力を問わず楽しめるダンス活動やハイレベルなパフォーマーに活動の場を提供すること、杉並をダンスの面から魅力ある街にしていく諸活動の推進や、そういった活動を行う個人、団体への補助。
- ・区営住宅など公共的な施策としての住宅政策。
- ・大人・子ども・老人全ての世代が、自然、みどり、化学、科学に関して勉強できる場とつどいや憩いのスペース。
- ・* 荻窪駅の南北分断の解消。(自転車で行き来しやすくしてほしい) * 住宅地であっても通り沿いには商店がある程度、混在するような街であってほしい。 * 若い人が自然に集まってくるような街であってほしい。

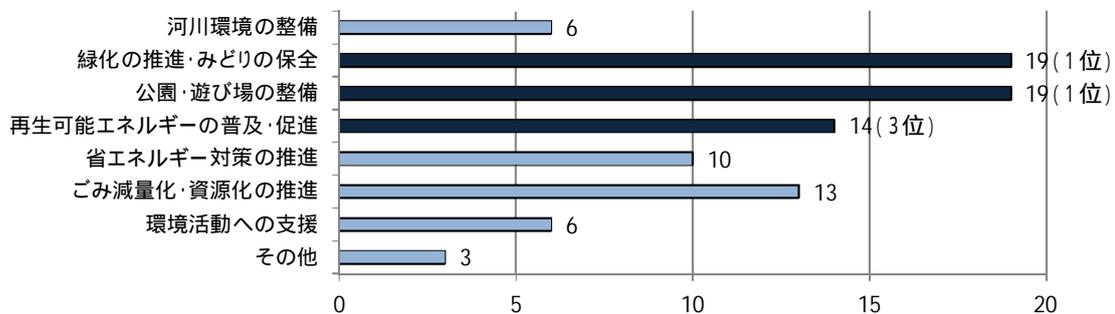
目標 みどり豊かな環境にやさしいまち

N = 35

	全体		性別					
			10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上		
河川環境の整備	6	6.7%	男性	2	0	1	1	0
			女性	4	1	1	2	0
緑化の推進・みどりの保全	19	21.1%	男性	8	1	5	2	0
			女性	11	1	4	5	1
公園・遊び場の整備	19	21.1%	男性	8	1	6	1	0
			女性	11	1	6	2	2
再生可能エネルギーの普及・促進	14	15.6%	男性	8	0	5	3	0
			女性	6	0	3	2	1
省エネルギー対策の推進	10	11.1%	男性	6	0	3	3	0
			女性	4	0	3	1	0
ごみ減量化・資源化の推進	13	14.4%	男性	6	0	4	2	0
			女性	7	0	3	3	1
環境活動への支援	6	6.7%	男性	3	0	2	1	0
			女性	3	0	2	0	1
その他	3	3.3%	男性	0	0	0	0	0
			女性	3	0	0	3	0
合計	90	100.0%	男性	41	2	26	13	0
			女性	49	3	22	18	6

その他

- ・電柱の地中化。
- ・再生可能エネルギーの推進とともに原発を廃止。
- ・里山のような自然なみどりを維持すること。
- ・みどりや環境についての地道な教育活動。



自由意見

- ・電柱の地中化。特に高円寺阿波踊りや阿佐ヶ谷七夕祭り等、区外から多数の観光客が訪れる地域を重点的に力を入れるべきと考える。
- ・再生可能エネルギーの推進とともに原発を廃止することへの意思表示を。
- ・緑は、公園だけでなく、街の至るところ(道路や公共施設、民家の庭や生け垣など)にあってほしい。(緑被率?が実感できるような、緑のあるところのマップのようなものを作ってはどうだろうか。)
- ・住宅地に点々と存在する小さな公園は魅力に乏しく利用者も少ない。雑草だらけで蚊が発生する。利用者がたくさん見込める楽しい個性的な広い公園を作って欲しい。だれも使わない小さな公園は他の目的に転用したほうがいいのでは。

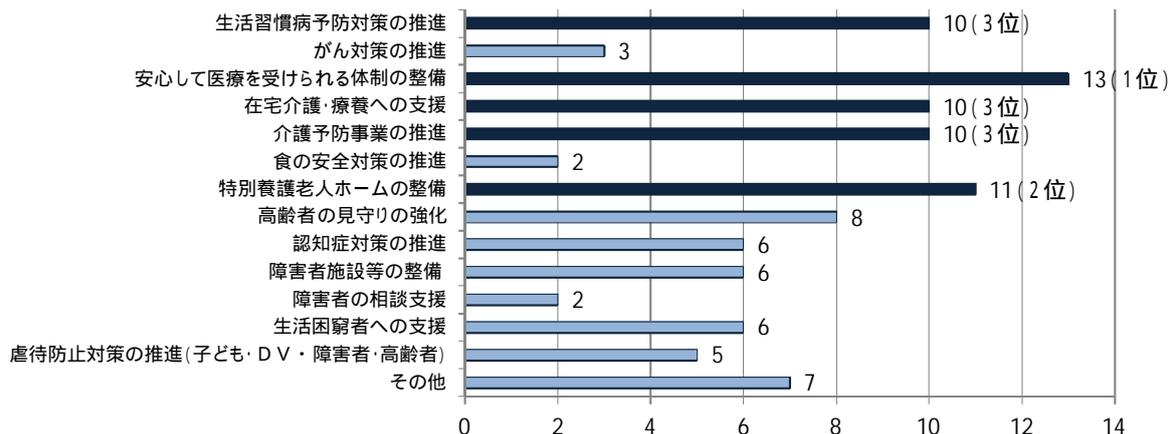
目標 健康長寿と支えあいのまち

N = 35

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	件数	割合	男性	女性				
生活習慣病予防対策の推進	10	10.1%	男性	6	0	4	2	0
			女性	4	0	3	1	0
がん対策の推進	3	3.0%	男性	1	1	0	0	0
			女性	2	0	1	1	0
安心して医療を受けられる体制の整備	13	13.1%	男性	7	1	3	3	0
			女性	6	1	4	1	0
在宅介護・療養への支援	10	10.1%	男性	5	0	2	3	0
			女性	5	1	1	3	0
介護予防事業の推進	10	10.1%	男性	5	0	3	2	0
			女性	5	0	2	2	1
食の安全対策の推進	2	2.0%	男性	1	0	1	0	0
			女性	1	0	1	0	0
特別養護老人ホームの整備	11	11.1%	男性	3	0	2	1	0
			女性	8	1	3	2	2
高齢者の見守りの強化	8	8.1%	男性	4	0	2	2	0
			女性	4	0	2	1	1
認知症対策の推進	6	6.1%	男性	1	0	0	1	0
			女性	5	0	2	3	0
障害者施設等の整備	6	6.1%	男性	5	0	5	0	0
			女性	1	0	0	1	0
障害者の相談支援	2	2.0%	男性	2	0	2	0	0
			女性	0	0	0	0	0
生活困窮者への支援	6	6.1%	男性	4	1	3	0	0
			女性	2	0	1	1	0
虐待防止対策の推進(子ども・DV・障害者・高齢者)	5	5.1%	男性	1	0	0	1	0
			女性	4	0	3	0	1
その他	7	7.1%	男性	3	0	2	1	0
			女性	4	0	1	2	1
合計	99	100.0%	男性	48	3	29	16	0
			女性	51	3	24	18	6

その他

- ・老若問わず集える環境づくり。
- ・認知症や介護になる前段階の防止策。
- ・サービス付き高齢者向け住宅の整備。



自由意見

- ・若手アニメ制作者の生活支援等、非正規雇用の増加により格差が広がり、若年の生活困窮者が増えていると感じている。従来の生活困窮者への支援だけでなく、クリエイティブやコンテンツ産業を取り巻く格差の改善に資する施策を行う事が、生活困窮者への支援にもなると考える(場当たりの対応では経営者や幹部層のみが利益を得ている現状があると考え)。若年者の雇用機会を創出だけでなく、創出後も継続的に支援する。
- ・健康診断の中に歯科を入れてほしい。
- ・ロコモ予防のためにダンスなどの高齢者でも取り組みやすいマイルドな運動を積極的に取り入れること。子どもと高齢者がともに楽しんで踊れるような場を提供したり、ダンスを一つのキーワードとして高齢者のQOL向上に役立てること。
- ・国民健康保険が事実上、空洞化している現状では行政支援が欠かせない。区として、独自の医療保障を推進してほしい。
- ・認知症や介護になる前段階の防止策を考える。図書館や科学館を利用していただき、高齢者の脳を活性化し興味や生きがい、体力、気力をつけること。
- ・まち歩きへの奨励。(かつて区の標語にもなっていた。高齢者には認知症予防など、歩くことは健康の源。目標、 、とも関連付けできる。)

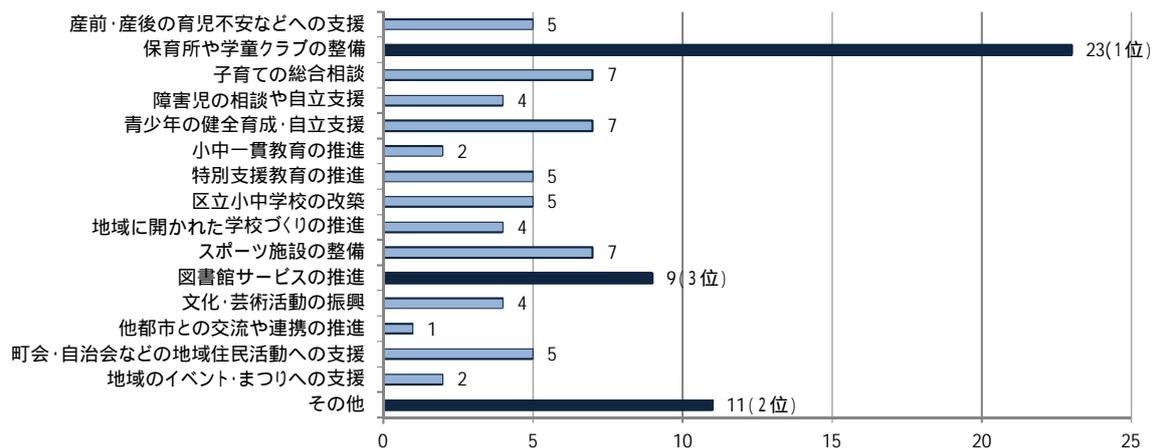
目標 人を育み共につながる心豊かなまち

N = 35

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	件数	割合	男性	女性				
産前・産後の育児不安などへの支援	5	5.0%	2	3	0	2	0	0
保育所や学童クラブの整備	23	22.8%	11	12	0	6	5	0
子育ての総合相談	7	6.9%	0	7	0	0	0	0
障害児の相談や自立支援	4	4.0%	2	2	0	2	0	0
青少年の健全育成・自立支援	7	6.9%	4	3	1	1	2	0
小中一貫教育の推進	2	2.0%	1	1	0	1	0	0
特別支援教育の推進	5	5.0%	4	1	0	4	0	0
区立小中学校の改築	5	5.0%	3	2	1	1	1	0
地域に開かれた学校づくりの推進	4	4.0%	3	1	0	2	1	0
スポーツ施設の整備	7	6.9%	4	3	0	4	0	0
図書館サービスの推進	9	8.9%	4	5	1	1	2	0
文化・芸術活動の振興	4	4.0%	1	3	0	0	1	0
他都市との交流や連携の推進	1	1.0%	1	0	0	0	1	0
町会・自治会などの地域住民活動への支援	5	5.0%	2	3	0	2	0	0
地域のイベント・まつりへの支援	2	2.0%	1	1	0	1	0	0
その他	11	10.9%	5	6	0	2	3	0
合計	101	100.0%	48	53	3	29	16	6

その他

- ・小中学生への学習支援。
- ・現存の児童館の維持。
- ・働く女性への子育て直接支援。
- ・科学館のような、科学に関する施設。



自由意見

- ・働く父親も母親も生活しやすく、また、PTAや地域活動に参加しやすくなるような仕組みづくり。
- ・区のスポーツ施設が少ない。テニスの場合、クレイコートが多くメンテナンス性の高いオムニコートに改修した方が良いと考える。また、サイトのユーザビリティ等、改善すべき箇所が多いと考える。(サイトが独立している点も改善すべきだが)。なお、区外の住民が集中してテニスコートを申し込んでいるようで、区民が抽選に全く当選しない現状に対して、申し込み制限を行うなど対策を講じるべきと考える。
- ・科学館の学校支援始業の維持。科学館の学校教育支援事業は、済美センターに移管しても、そのノウハウは継承できず、結局子供達にしわ寄せが行くと思う。小中学生の理科離れを食い止めるためにも、是非再考して欲しい。
- ・ダンスを用いて区民相互の親睦を深め、つながりやふれあいの機会をつくること。音楽とともにリズムに合わせて踊ることで心身ともに豊かになり、ひいてはそのような体験を共有することで芸術的な雰囲気を出せること。
- ・祝日勤務の両親のための保育施設のフォロー、学童保育の時間延長。(保育園と同様に19:30までにして欲しい。)

- ・若杉小跡地利用を具体化する。とりわけ、住民参加(町内会長の意見といった形式的ではなく)で跡地利用を考えなければならない。
- ・「都会らしさ」が感じられる街であってほしい。
- ・児童館をなくさない。学童の需要は伸びるばかりなのだから今の児童館ものこさなければ需要に追いつかない。

問5. その他、計画改定に関してご意見等がありましたら、[]内にご記入ください。

- ・子育て世代としては、共働き世帯が増えてきたこともあり、その支援を充実させてほしいと考える。昨今は未就学児も就学児も、保護者がパートタイムを含めた共働きであることが過半数を占める勢いです。今回の計画改定は、これまでの自治体としての取り組み全般を見直す素晴らしいチャンスだと思う。統計データや全世帯へのアンケート調査などを踏まえ、住民が本当に暮らしやすい計画を策定いただくことを期待している。
- ・2040年には20～39歳の女性人口が激減するとの推計があった。将来にわたって杉並区が発展するためにも、今から子育てサービスに力を入れるべきだと思う。保育にお金をかけない自治体からは若い世代が流出していくだけである。ぜひご検討を。
- ・共働きが当たり前になっている現代において、保育園の預かり時間より学童保育のほうが短いというのはいかがなものか。また、祝日勤務やシフト勤務の方も多くいると思う。そういった方向への支援も是非検討してほしい。昨今の現状を踏まえた見直しを強く希望。
- ・長期計画(グランドデザイン)も示してほしい。例えば、保育でいえば短期的には目先の課題に対応するため企業の力を導入して保育室を積極的に設置していく一方、長期的には管轄官庁をまたがる国・都・区施設の有効活用のなかで、どうした保育施設が杉並区の理想かを細かく示してほしい。絵空事もあってもいいので、時勢に応じて毎年見直してもよいと思う。
- ・大学生から小学生まで、3人の子どもを抱える身である。杉並は保育ばかりが目立って注目がちだが、現在このテーマに声をあげている人たちは、早晚学童保育や青少年育成、さらに先には自らの高齢者対策などに対して声を挙げることになるはずである。区の限られたリソースやインフラを何かに集中して投下してしまうのではなく、こうした資産をバランス良く活用し、老若男女・健常者も障がい者・家族持ちや独居の方など、すべての人たちに配慮した街づくりに期待している。また、現在私は 小学校の運営協議会委員として学校に関わっているが、学校を「世代を超えて地域をつなぐ交流の拠点」と位置付けたいと考えている。「地域に対して、学校の敷居をいかに下げていけるか」が街づくりそのものに関わると考えているので、ハード面や制度の面も含め、そうした動きを支援する施策をお願いしたい。
- ・放置自転車も解決が難しいと思う。駐輪場を使用しているが、「駐輪料金の互換性」があるといい。というのは近隣他駐輪場を使用の際、そこへの料金を払う。(当然なのだが) 契約料金分を駐めるのにはかなり出歩かなくては無理である。いま3か月5400円支払っているが、54回も出歩くのはとても無理。毎日利用する常時利用者には簡単にクリアできるだろうが…。それなら「契約をやめたら」と言われそうだが、いつでも駐められるという安心保険になっているので、年寄りには高いところに持ち上げなくてはならないのもきついことである。地下から地上へ出るとき、降りるときの急勾配もつらいものがある。下り側、上り側の表示もはっきりさせてほしい。歩行者が逆側を歩いてくるのでチャリで上り下りしている時に困る。一番の問題は、荻窪南口駐輪場である。噂話だが、前区長がいろいろ改革して杉並区は23区の中でも上位5くらいに位置づけられていたそうだが、現体制になってからはワースト5になっている。少し前を思い出して戻せるものは戻し、暮らしやすい区民生活が送れることを祈念している。
- ・抽象的な美辞麗句を並べるのではなく、具体的かつ実現可能な計画としていただきたい。
- ・身近な場所に公共施設が必要。天沼・本天沼・清水地域には図書館などがない。また、さまざまな口実をつけた区施設の廃止には反対。「身近な所で役に立つ」という行政の心意気を見せてほしい。
- ・科学館のような科学に関する施設を計画していただきたい。杉並区には今まで通りの科学教育が必要と考える。
- ・今の標語はどこでも言えるものである。それに対して以前標語はやや強引でもトガッタところがあった。(歩き、元気、文化) そういう、集中感と特徴のある、トガッタ計画にして欲しい。
- ・もっと地元の意見を聞く機会を作って欲しい。上から突然計画を下ろさされても困る。私たちの杉並区なのだから。「地元の意見をきく」とは「町会長のお許しをいただく」ということではない。